



発行所 日本工業大学 広報課 埼玉県南埼玉郡宮代町 郵便番号345 電話04803(4)4111

スタッフ



就職指導室長 小高寿夫 機械工学科教授



就職指導室主任・学生部付 野村隆 (前総務部用度係)



同室員・学生部付 渡辺いち (前教務課・機械工学科事務担当)

Clean & Green

緑化計画進行中 学内の美化に協力を

就職指導室開設される

室長に小高寿夫教授

就職指導室開設の目的は、就職を志望する全学科の学生諸君の... 諸君は、従来から行なわれて...

動に移ることができるようにならなければなりません。このように、早めに就職準備...

技術者の夢

エネルギーを考える

箱という言葉がいかにもびつたりするような汽車である。乗客といつても、自分以外は...

あつたことではあるが、どうもそんな色見本だけで区分できるようなものではなさそうである。いずれにしても...

短期間になしとけることができないものであろうか。植物の葉緑素が、一年間に炭酸ガス...



藤岡元学長 勲二等叙勲

今年の春の叙勲で、本学第三代学長藤岡通夫先生が勲二等瑞宝章の栄誉に浴されました。

初夏随想

学長 三浦 靱 郎



この三月には新春随想と題して書いた。もう六月になったので、今度は初夏随想とする。随想というものは、思いつくままに、という多少無責任なものである。

この間の花木は、移したばかりなのに、かなり花をつけた。来年の花時はさぞ美しいであろう。これらの花木は後援会のグリーン計画によるものであるが、その後援会の総会が五月十一日、若葉の中で、しかも快晴に恵まれて、開かれた。

昭和54年度 学生生活実態調査から

学生部調査

このたび昭和五十四年度の学生生活実態調査結果がまとまったので、この機会にその概要を述べ、調査結果の分析等の参考にしていただきたい。報告書は本学教職員、学生の各組織、他大学等に配布したが、本学図書館において随時閲覧できるので利用していただきたい。

この調査は本学学生の生活実態を把握し、今後の厚生事業の基礎資料を得ることを目的としている。調査の対象となった学生は、全学生の中から学科、学年、入学年度別に三百五十名を無作為に抽出した。回収された有効回答数は二百二十九名であった(平均回収率は六五%)。学科、学年による回収率は表1に示した。六五%という数字は

表-2 住居形態

上段が回答数、下段のゴシックが百分率

	1年	2年	3年	4年	計
自 宅	36 59.0	30 53.6	25 41.0	25 49.0	116 50.7
知人・親戚宅	1 1.6	1 1.8	1 1.6	1 2.0	3 1.3
大学指定寮	1 1.6	3 5.4	4 6.6	3 5.9	11 4.8
下宿(賄付)	10 16.4	3 5.4	3 4.9	5 9.8	21 9.1
間借アパート	14 23.0	19 34.0	28 45.9	16 31.4	77 33.6
そ の 他	1 1.6	1 1.8	1 1.6	1 2.0	4 1.7
計	61 100.0	56 100.0	61 100.0	51 100.0	229 100.0

表-1 回収結果

分母は抽出学生数、分子は回答数
ゴシック数字は回収率(%)を示す。

	1年	2年	3年	4年	計
機 械 工 学 科	18/24 75.0	17/24 70.8	17/24 70.8	17/26 65.4	69/98 70.4
電 気 工 学 科	18/24 75.0	18/24 75.0	19/25 76.0	16/31 51.6	71/104 68.3
建 築 学 科	19/24 79.2	14/24 58.3	16/25 64.0	13/27 48.1	62/100 62.0
システム工学科	6/12 50.0	7/12 58.3	9/12 75.0	5/12 41.7	27/48 56.3
計	61/84 72.6	56/84 66.7	61/86 70.9	51/96 53.1	229/350 65.4

他大学における同種の調査での回収率(私大二十校の平均五九%)よりも上回っている。質問は全部で五十四から成っているが、ここではその全てについてふれることはできないので、特に興味のあるような項目の調査結果を示すと共に、説明を加えることにする。

●住居形態
自宅から通学している学生と、自宅以外に通学している学生の数は学年によって多少の変動はあるが、全体ではほぼ同数である(表2)。これは昭和五十三年度に文部省が行なった全国学生生活調査(以下全国調査と呼ぶ)結果においても、同様の結果が得られている。一般に、首都圏の私大では、自宅通学生の割合が四〇%程度でやや少ないが、全国平均では五〇%になっている。

●通学時間・方法
表3に見られるように、自宅通学の場合は平均約九十分、自宅外の場合は平均約三十分で全体の平均は約六十分となっている。自宅の場合は、埼玉県、東京都を始め関東各県から通学しているが、自宅外では七〇%以上が宮代町または杉戸町から通学している。この両町からの

自宅通学生は四〇%で、住居形態によつて、その地域に明確な差がある。また、全学年の約四〇%が宮代・杉戸町に住んでいることになる。

●生活費支出
生活費支出の内訳は表5に示した。全支出の月額平均は、自宅通学生が三万三千円に対し、自宅外通学生が六万六千円と二倍に上っている。一方、全国調査における私大の平均は、自宅が三万七千円、自宅外が六万八千円であり、調査時期の差(約一年半)を考えると、本学は全国平均よりやや低額になっている。

●収入の状況
学生生活を賄うものは、家庭からの給付・奨学金およびアルバイト収入等である。表6が収入平均値である。家庭からの給付は、自宅の場合二万四千円(全収入に対する割合

表-4 通学方法

	1年	2年	3年	4年	自宅生	自宅外生	計
徒 歩 の み	13 21.0	4 7.0	8 12.7	6 11.8	2 1.7	29 25.2	31 13.3
自 転 車	8 12.9	12 21.1	14 22.2	2 3.9	2 1.7	34 29.6	36 15.5
バ イ ク	5 8.1	2 3.5	4 6.3	8 15.7	5 4.2	14 12.2	19 8.2
自動車(4輪)	2 3.2	7 12.3	4 6.3	7 13.7	13 11.0	7 6.1	20 8.6
電車・バス	34 54.8	32 56.1	33 52.4	28 54.9	96 81.4	31 27.0	127 54.5
計	62 100.0	57 100.0	63 100.0	51 100.0	118 100.0	115 100.0	233 100.0

表-3 通学時間(片道)

	1年	2年	3年	4年	自宅生	自宅外生	計
10分以内	9 14.8	9 16.1	21 34.4	9 17.6	2 1.7	46 40.7	48 21.0
10~30分未満	17 27.9	10 17.9	5 8.2	10 19.6	8 6.9	34 30.1	42 18.3
30~60分未満	7 11.5	9 16.1	10 16.4	11 21.6	14 12.1	23 20.4	37 16.2
60~90分未満	7 11.5	13 23.2	10 16.4	4 7.8	28 24.1	6 5.3	34 14.8
90~120分未満	11 18.0	7 12.5	12 19.7	11 21.6	37 31.9	4 3.5	41 17.9
120~150分未満	7 11.5	6 10.7	2 3.3	3 5.9	18 15.5	0	18 7.9
150~180分未満	2 3.3	2 3.6	1 1.6	3 5.9	8 6.9	0	8 3.5
180分以上	1 1.6	0	0	0	1 0.9	0	1 0.4
計	61 100.0	56 100.0	61 100.0	51 100.0	116 100.0	113 100.0	229 100.0

きなかったことは、いままでになかったようである。

は七二%)、自宅外の場合五万九千円(同八二%)である。ほぼ全員が家庭からの給付を受けている。家庭からの給付額と主たる家計支持者の年間収入との関係を見たものが図1である。家庭の収入額が高くなるにつれて家庭からの給付額は多くなるが、その割合は小さい。特に自

表-5 月平均の生活費支出額平均値(授業料等の大学納付金を除く()内は人数)

	自 宅 生					自 宅 外 生				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
修 学 費	4,500 (30)	4,577 (26)	3,857 (21)	6,278 (18)	4,716 (95)	5,864 (22)	5,957 (23)	5,258 (31)	5,000 (19)	5,516 (95)
課 外 活 動 費	4,600 (15)	7,077 (13)	3,750 (8)	6,500 (8)	5,523 (44)	3,500 (12)	5,000 (8)	4,875 (19)	4,333 (9)	4,458 (48)
通 学 費 (定期・バス)	6,100 (30)	8,391 (23)	5,556 (18)	6,864 (22)	6,742 (93)	1,900 (5)	3,125 (12)	2,667 (12)	6,000 (13)	3,738 (42)
食 費	12,237 (38)	10,184 (19)	12,263 (19)	11,413 (23)	11,657 (99)	22,435 (23)	24,154 (26)	24,944 (36)	24,667 (24)	24,165 (109)
住居光熱費	13,875 (4)	9,500 (3)	10,500 (2)	4,500 (1)	10,950 (10)	20,000 (22)	18,077 (26)	18,000 (35)	18,125 (24)	18,458 (107)
保健衛生費	5,000 (5)	1,500 (3)	1,167 (3)	6,375 (4)	3,900 (15)	1,333 (6)	3,313 (8)	3,714 (7)	3,389 (9)	3,033 (30)
教 養 費	2,250 (9)	4,250 (12)	3,406 (6)	5,167 (12)	3,915 (41)	3,225 (10)	2,900 (10)	5,533 (15)	8,865 (13)	5,406 (48)
娯楽・交際費	7,673 (26)	7,167 (27)	8,725 (20)	11,091 (22)	8,542 (95)	7,950 (20)	8,455 (22)	10,552 (29)	10,500 (19)	9,450 (90)
その他の日常費	3,125 (16)	3,412 (17)	4,956 (17)	5,000 (11)	4,053 (61)	4,516 (16)	4,938 (16)	7,280 (20)	5,133 (15)	5,580 (67)
計	31,939 (31)	34,310 (29)	27,300 (20)	39,114 (22)	33,251 (102)	73,386 (21)	60,289 (26)	65,657 (35)	65,652 (23)	65,872 (105)

表-6 生活費収入平均値 (()内は人数)

	自 宅 生					自 宅 外 生				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
家庭から	24,983 (30)	24,904 (26)	23,750 (22)	22,857 (21)	24,237 (99)	65,833 (24)	57,308 (26)	55,556 (36)	57,600 (25)	58,649 (111)
奨 学 金	0	20,500 (1)	0	11,500 (1)	16,000 (2)	11,500 (1)	22,500 (6)	23,500 (8)	23,500 (1)	22,375 (16)
アルバイト	17,500 (6)	17,143 (14)	28,125 (8)	32,500 (16)	24,773 (44)	30,000 (6)	18,000 (5)	23,000 (10)	34,167 (12)	27,576 (33)
そ の 他	3,000 (1)	11,000 (1)	21,000 (1)	15,667 (3)	13,667 (6)	5,000 (2)	0	11,000 (1)	11,000 (1)	8,000 (4)
計	28,000 (30)	32,692 (26)	33,333 (21)	42,273 (22)	33,535 (99)	74,896 (24)	65,625 (24)	70,500 (35)	74,135 (26)	71,261 (109)

図-1 家庭の収入別に見た家庭からの給付額

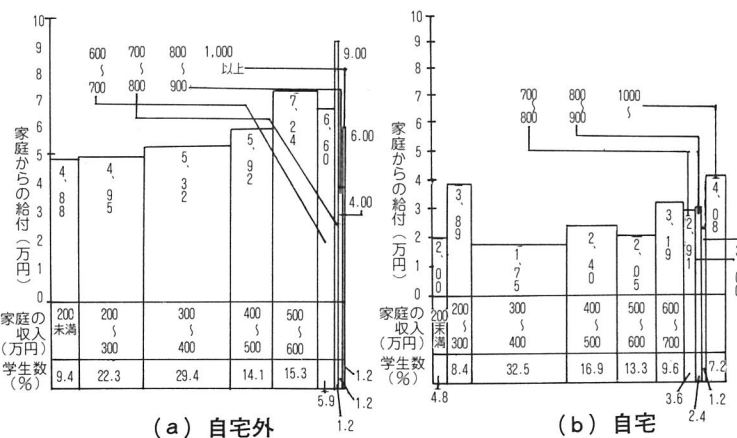


表-7 アルバイト従事状況

	1年	2年	3年	4年	自宅生	自宅外生	計
していない	23 37.7	10 17.9	7 11.3	4 7.8	15 12.9	29 25.4	44 19.1
長期休暇中のみしている	26 42.6	38 67.9	38 61.3	21 41.2	73 62.9	50 43.9	123 53.5
授業期間中に臨時的にしている	5 8.2	3 5.4	2 3.2	7 13.7	5 4.3	12 10.5	17 7.4
授業期間中に経常的にしている	0	1 1.8	2 3.2	4 7.8	3 2.6	4 3.5	7 3.0
長期休暇中も授業期間中もしている	5 8.2	4 7.1	10 16.1	12 23.5	16 13.8	15 13.2	31 13.5
そ の 他	2 3.3	0	3 4.8	3 5.9	4 3.4	4 3.5	8 3.5
計	61 100.0	56 100.0	62 100.0	51 100.0	116 100.0	114 100.0	230 100.0

宅通学の場合はほとんど相関が見られない。

家庭からの給付に続いて多いものがアルバイト収入であり、アルバイト収入のある学生の平均額は、二万六千円である。アルバイトは、約八〇%の学生が何らかの形で行なっている(表7)。しかし、生活費収入として表6に記入した学生は三五%であり、残りの四五%は何らかの理由で、毎月の生活費としてアルバイト収入を見込むこと

奨学金収入の平均は、自宅の場合一万六千円、自宅外の場合二万二千円である。奨学金を受けている学生の割合は、全体の七・五%で、全国の私大平均一五%の半分である。

がでないのではないかと思われる。アルバイトの主な従事職種は軽労働・重労働が多く、家庭教師は非常に少ない。学生アルバイトの花形といわれた家庭教師は全国調査においても減少の傾向にある。

表-9 課外活動による授業の犠牲について

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include categories like '非常になっている', 'かなりなっている', etc.

●クラブ活動 クラブ・サークルへの加入状況は表8に示した。高学年になるにしたがって加入率は低下するが、平均すると四四%の学生が加入している。一、二年生では半数以上が加入している。他の私大調査における平均は、二七%であることを考えると、この数字は相当高いものと思われる。

表-8 クラブサークルの加入状況

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include '何も所属していない', '1つだけ所属している', etc.

表-10 1日平均勉強時間

(試験期を除く授業以外の勉強時間)

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include 'ほとんどしない', '約1時間', '約2時間', etc.

表-13 あなたの大学生生活の充実度は

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include 'とても充実していると思う', 'かなた充実していると思う', etc.

表-12 配偶者の有無

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include '配偶者有', '配偶者無', '計'.

表-11 朝食のとり方

Table with 8 columns: 1年, 2年, 3年, 4年, 自宅生, 自宅外生, 計. Rows include '食べない', '自宅です', '下宿等の賄い', etc.

この調査は、昭和54年8月現在の調査で、本学学生部学生実態調査小委員会(桑原文夫助教授・木村哲三助教授・鈴木康之助教授)のまとめによるものです。[文責: 桑原文夫助教授]

●大学に対する要項 大学に対する要項や期待は第14回において、自由記述文章を書くようになってきた。その概要を述べてみよう。回答はその内容が多岐にわたるが、そのニュアンスによって、言わんとする内容を正確に判断することは難しい。そこでKJ法(川野田・郎氏創案)による分析を試みた。一人の学生が長文で意見を述べている場合は、その内容ごとに短文化して整理分類した。このようにすると、全部で二百三十四項目の意見に分類できた。それらを大きな分類項目として系統化すると、大要は次のようになる。

海外研修レポート ドイツ——一九七九年 ゴットホルト・エフライム・レッシングは一九二九年一月二十二日に生れた。したがって一九七九年は生誕三〇周年というわけで、七八年から七九九年にかけてドイツ各地でさまざまな記念行事がおこなわれた。それはとりわけ、東ドイツでは生地カーメンツ、西ドイツでは今回私が訪れたヴォルフエンビュテルやハンブルクで盛大におこなわれたのである。

レッシング・ハウスではまず館内をひとまわりしてみた。彼の草稿、初版本、論争相手の著書などが展示されているが、整備されてからまだ日が浅いせい、必ずしも資料が充分そろっているとは言えない。ゆくゆくはこれを、レッシング関係の資料収集や研究の場にしていくというところだが、いざいざいというところでは、この中で昨年来の講演等の記録や図書館が発行した小冊子など入手することができた。またそこで、町で最も大きな本屋で求めた。その後も図書館とレッシング・ハウスにはほとんど毎日足を運んで読書したり、展示品の写真をとらせてもらったりしたり、リヒトヴィツ氏にも会って、未刊の資料が刊行されたときには報告してくれるように頼んでおいた。

私がかつて調べたのは晩年のレッシングがおこなった神学論争に関する資料と、前年以來おこなわれてきた記念行事としての講演やシンポジウムの記録である。目録からめざす書物を選んで申込書に記入して読書室で待っていたが、残念ながらすべて借出されてしまっていた。しかし後者については、レッシング・ハウスの責任者であるリヒトヴィツ氏に問い合わせた。レッシング・ハウスはいわば官舎であった。レッシングの後にも何人かの図書館関係者が次々と住んでいたのだが、生誕二五〇年を機に整備されたのである。因みに一九七七年に訪れた時には、まだ工事中であった。

日本拳法部です。日本拳法といつてもあまり耳慣れないか、また、聞いたことはあっても、その内容までは、ほとんどの人がご存知ないかと思えます。これを簡単に説明しますと、面、胴、股当、グローブ、シューズで身体を保護し、突く、打つ、蹴(け)るなどの当て身技と、組みついたり投げ技、関節逆捕え技を行うなど、武器を持たずに、素手で相手と戦う技術を研究し、練習(まじ)、事に臨んで必勝を得ることを目的とする徒手格闘技です。また、前にも述べたように、身体を防御によって完全保護しているのが、最も現代的なスポーツであると言えましょう。

レッシング・ハウスは、レッシングの責任者であるリヒトヴィツ氏に問い合わせた。レッシング・ハウスはいわば官舎であった。レッシングの後にも何人かの図書館関係者が次々と住んでいたのだが、生誕二五〇年を機に整備されたのである。因みに一九七七年に訪れた時には、まだ工事中であった。

日本拳法部は、拳法そのものの教えから、以上のことをふまえて、我がクラブの信条である「部員は、皆、兄弟である」をモットーとし、日々、練習に汗を流しています。学内のクラブとしてはまた歴史が浅く、殆ど足元から始まりました。現在、部員数は二十名、練習場は体育館の一角にあります。一昨年、関東学生拳法連盟に加入して、年々、普及に力を着けてきていますが、今後、ますますの発展を部員一同に決めています。自己の練習は部の意気につながらず、部の意気は体育会へつながるものと信じ、より一層、その精進して行く覚悟です。



われら仲間たち 日本拳法部の巻

